

ななかま

挨拶をしない人にも 夏日は燦々
湖面 老若エト 夏を漕ぐ

運動会の反省とお願い

皆様のご協力で無事に終わることができた運動会でしたが、終了の形に反省が残りました。緊急性が高いとはいえ、子どもたちの保護者引き渡しを十分に確認ができていませんでした。

このキャンパスでも数年前に大学生を狙った誘拐未遂事件があったようですが、当地の誘拐事件の発生件数は日本の比ではありません。大学構内とはいえ決して安心できないことを改めて肝に銘じたいと思います。

子どもたちが授業終了後に校庭で遊んでいる風景をまま見ることがありましたが、わが子からは目を離さないように気を付けましょう。校舎内でも不審者が侵入しないという保証はありませんので、お互いにこれからも警戒していきたいと思います。

「十人十色」(その4)

小学生のころは、自分の性格が変で考えていることが変で、父や母が変であるとは決して思いませんでした。私の家での習慣や当たり前だと思っていることが、隣の家では異なっているのだということなど思いもしませんでした。ところが、大学に入って下宿をし、友だちと過ごす時間が長くなる過程で、様々なカルチャーショックに遭遇し、自分の考えていることは他の多くの人が考えていることとは異なっていて、自分は他の人と同じく多くの中の一人でしかないことに気付いたのでした。

皆様のお家で正月に頂く雑煮に入っている餅の形は、○ですか□ですか、それとも白ですか、あん入りですか、それとも汁はみそでしょうか、しょうゆでしょうか。全国的にはどの組み合わせも存在するようですが、おふくろの味ふるさとの味は一つなのだと思います。その当たり前のように感じている感覚を、誰もがそれぞれに抱いていることを、若いころにはあまり意識してこなかったように思います。

人が生活する空間では、それぞれが特異性を持ちながら共存しています。その個別性を尊重しながら、どれだけ自分らしきを出すかは、私たちの生活にもかかわってくる重要なことです。個性的であることは、自分らしく豊かに生きるために欠かせない要素です。自分に向き合う強さがなければ、豊かな個性は育ちません。あん入り餅の入ったみそ汁の雑煮も、驚きと共に印象深いものです。

プリンス日本語学校(補習校部)



平成24年度 No.11号

平成24年 6月17日

文責 長尾重範

行事予定表

海外子女文芸作品コンクールの締切りは6月24日。その他のコンクールの締切りは8月26日です。夏休み明けの授業は8月19日から始まります。



「百聞は一見に如(し)かず」(5)

Seeing is believing 「キャンパスの話」

私が屋外で寝たのは、中学校3年生の時が初めてでした。古いテントと草の匂い、アルミケースに盛った食事の新鮮さ、木々の梢が鳴る音と、夜は雨に降られて不安でよく眠れなかったことなど、どうして鮮明に覚えているのでしょうか。

毎日の屋内での生活が快適で安心なのは言うまでもないことですが、その安定さは私の中の感動をどこかに遠ざけているのかもしれない。本当に快い感覚になれるものは、自然を直接に経験する中にあるように思いました。

さて人間は、他の動物に比べて、一人前になる(餌を採って自分で生きられる)のに相当長くかかるようになっていきます。脳が発達する過程で、多くの能力を拡大させることができるようになりました。しかし、それでも脳の機能はほとんどが幼児期にでき上がってしまい、ある年齢がくると新しいものを取り入れる能力が衰えていきます。その境目を臨界期と呼んでいます。

昔から「鉄は熱いうちに打て」と言ったり『少年老い易く学成り難し』と言ったりして、その臨界期までの経験なり刺激なりが大事であることを先人も強く意識していたのでしょう。

私はそれ以後、あの時の感動が忘れられずに折に触れて屋外に出ることを楽しみにしてきました。あの経験がもっと後になってのことであればその感動はそれほど大きくはなかったかもしれませんが、もっと年少の頃に経験していればそれを職業にする選択をしたかも知れません。

さまざまな能力の臨界期にあると思われる皆さんには、大いに自分に挑戦し、感動の原点を深めてほしいと思います。もうすぐ夏休みです、質の高い日々を送ってください。